

よーやいりなさん中の末山の奥も心閑
まして大鷹を友とて送旅の月に慰まん
まはと思ふれられし例の蒼鷹毛とやら
雲上と名付られし大鷹阿久左丸とやら
大首ハ白くて尾ハ飽と黒りりや。是亦斗
を此伴とてな。都を相浮いてさき
あふ下界。東山屋下野。二意山の麓は着た
ほい山のまゝはめてあいてよこあふ歌は
けえも志々如雲強。一立。こて
二意山も思ふすめ。こ

那須の篠原をり。とりふ白川の関あきて
漸新橋は日影を重あ。都を此出あり。あ
ち。日とやらに陸奥の小野とやら。こ
三人の影あり。あきそ出あ。い。館の中
指入て見あ。雙岡如雲は歌つて夾路て
寝臺中。天懸。朱岡玲瓏と林間。に
り。に玉堂陰映。と。馬。て。り。八桂。表。
挺。て。臥。陵。雲。又。是。素。含。秀。晨。は。布。り。皓。壁。去。皀
曜と白う。て。如。月。は。て。り。丹。桂。歛。絶。と。去。う
て。電。の。如。は。閃。き。如。霞。は。變。り。て。就。桶。歌。